

〈作品 008〉

## BENTEN 2050

チーム名：ユーレイブール

小林諒（佐藤総合計画 / yuureibool）、宇田川剛（同）  
田中達大（トライコーン株式会社 / yuureibool）  
木下翔太（ケーティーマシナリー株式会社 / yuureibool）

奨励賞

動画は公式ウェブサイトに掲載



# BENTEN 2050

新安治川水門アイデアコンペ応募案

かつて港町として開発された町「弁天町」

2025年の大阪万博を機に、より国際的な交流・イベントの場としての価値が高まることが想定されます。新・安治川水門をシンボルとし、商店街エリアを活性化、さらに都市全体で親水空間をデザインすることで先進的かつエコフレンドリーな弁天町の未来像を提案します。

## Contents

**Masterplan**

弁天町の未来像について

**Watergate**

水門のデザインと利活用

**Shopping Street**

新しい商店街のデザイン

**Waterfront**

まちと水辺の結節点

# Masterplan

## Watergate

水門のデザインと利活用

## Shopping Street

新しい商店街のデザイン

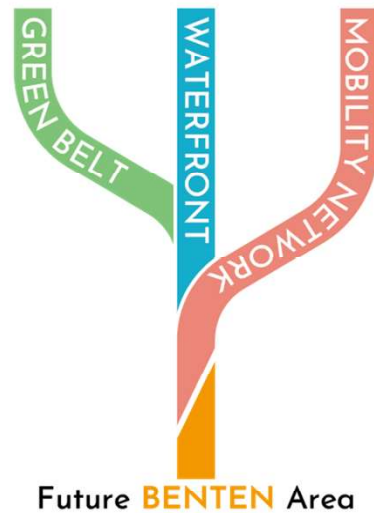
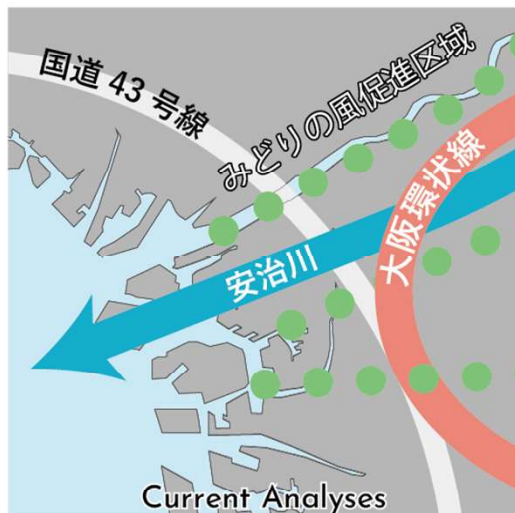
## Waterfront

まちと水辺の結節点

今回のコンペティションにおいて提案の対象は3地区です。  
 私たちは、それぞれを別個に提案するのではなく、  
 弁天地区に求められる役割の分析から「マスタープラン」を考案し  
 それぞれの個所にふさわしいデザイン提案へと結び付けていきます。

## 01 | Analyses

### 弁天町：多種多様に交錯する都市軸を受け止める場所



府市統合で取りまとめられた『グランドデザイン・大阪』により、2050年を目標とする大都市・大阪の都市空間の姿が示されました。こちらの資料では、大阪の将来像を形作る要素として「みどりの創出」「親水空間の創造」「交通・インフラの整備」などが挙げられています。

弁天町周辺エリアは今後開発の進むベイエリアと水都大阪の要である中之島の中間に位置するため、上に挙げられた要素を満たしつつ来訪者をより満足させる魅力的な都市景観を整備することが肝要です。

以上を踏まえて、新安治川水門と周辺地域および河川軸における都市デザインの提案を行っていきます。

# 02 Proposal

## 「3つのシンボル」と「3つのリング」を起点に弁天町を活性化

### Point 1 弁天リング

大阪ベイタワー・新水門と新たに提案するコンベンションセンターを結び、都市に親水空間を構築します。

大阪ベイタワー

(既存)

### Point 2 モビリティリング

多様な公共交通機関の交通網を配置し、海の玄関口として新たな産業やエンターテインメントを誘致します。

コンベンション  
センター

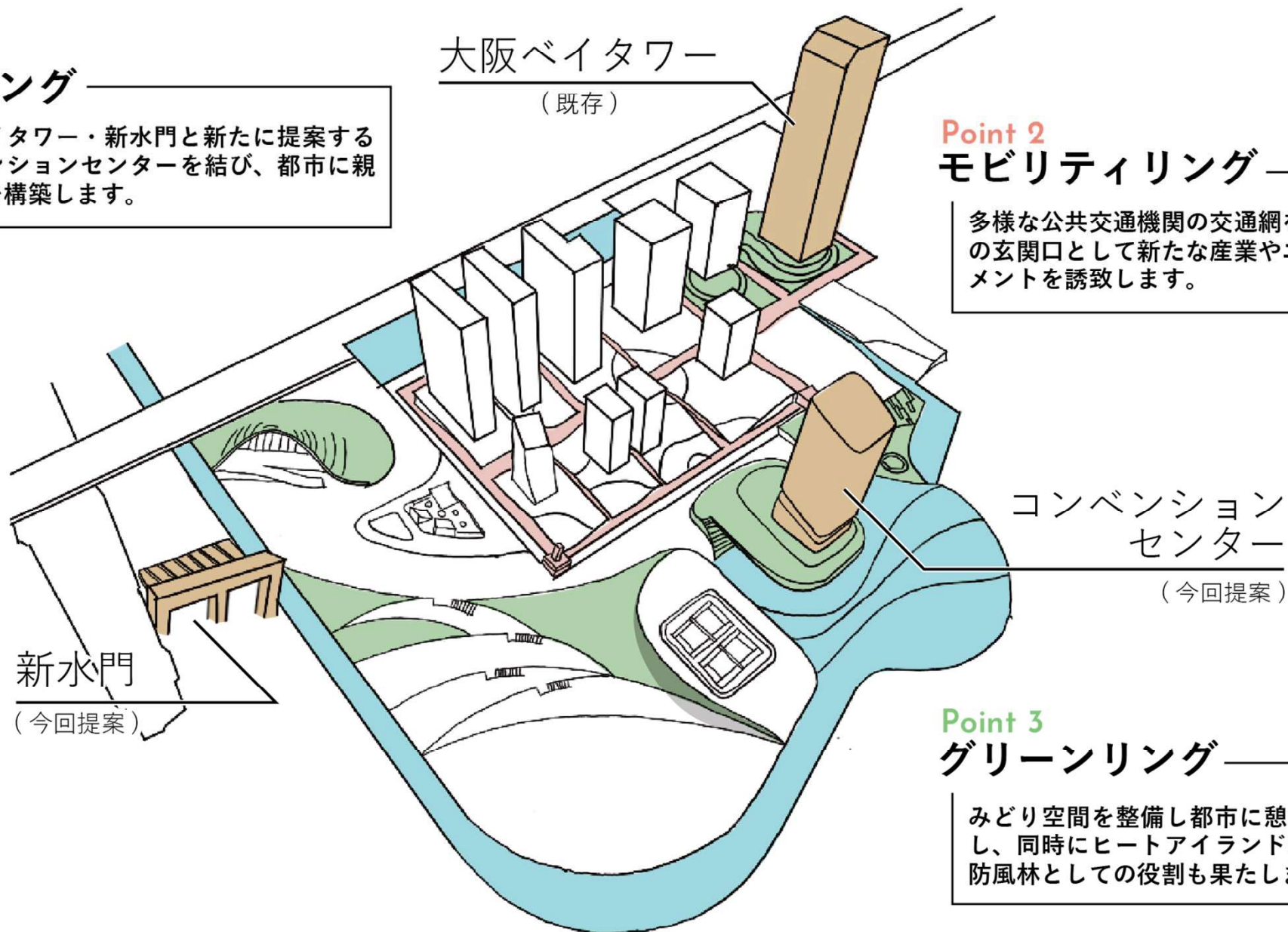
(今回提案)

新水門

(今回提案)

### Point 3 グリーンリング

みどり空間を整備し都市に憩いの場を創出し、同時にヒートアイランド現象の緩和や防風林としての役割も果たします。

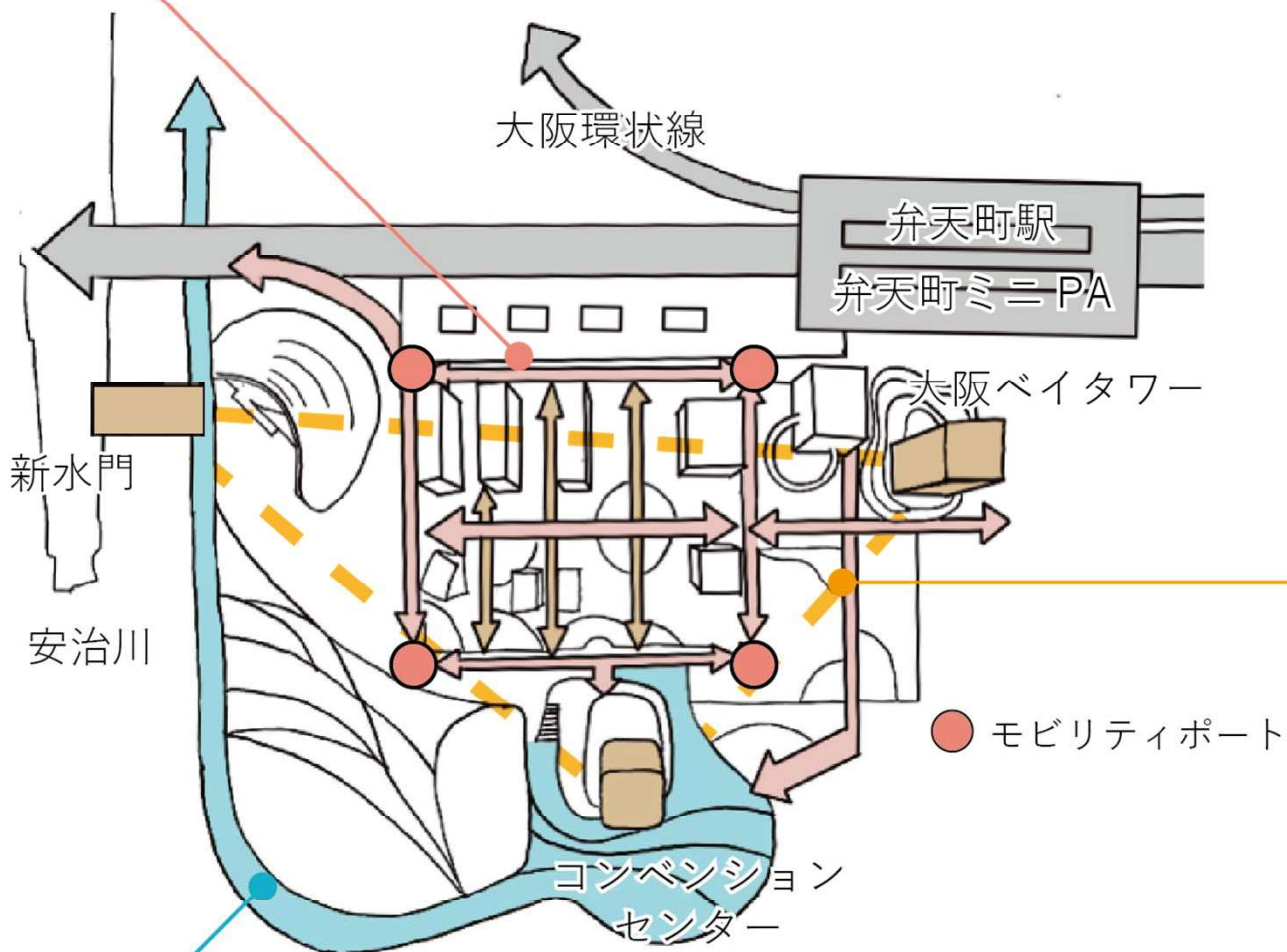


# 03 Activity

## 水門周辺地区で展開される都市生活

### ウォーカブルな都市空間を創造

自動運転車及び歩行を軸とした交通網を整備し、歩行者中心の都市空間を形成。同時にモビリティポートを整備し、多様な交通手段を提供します。



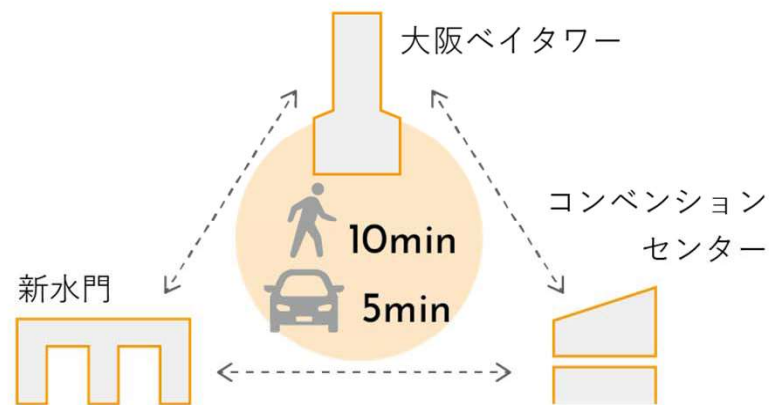
### 身近な親水空間を構築

シンボリックな水門を基軸に、客船の停泊も可能な親水デッキを構築。大阪市の目指す国際的な拠点を構成する一助となる水辺空間を提案します。

### 「3核3モール」型の都市計画



イオンの店舗計画等に見られる「2核1モール」



今回提案する「3核3モール」

既存の大阪ベイタワーに加え、新水門・コンベンションセンターを新たに計画します。これら三拠点間を、5分以内で移動可能となるように公共交通及び自動運転車・歩行者ネットワークを整備し、面的にまちを活性化していきます。



# Watergate

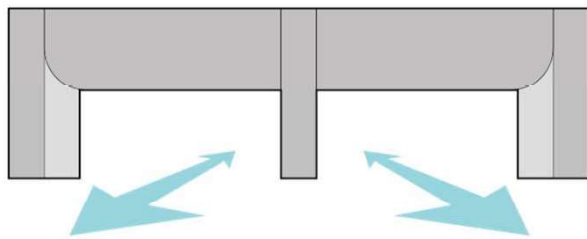
水辺に賑わいを創出する水門

## 01 Strategy

いかなる時にも水辺空間のシンボルとして機能する水門

### Daily Use

平常時：水都大阪のゲート

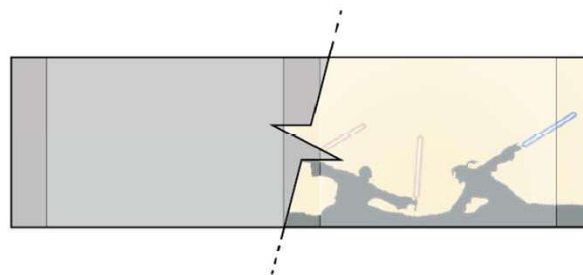


### Test Run

月1回の試運転

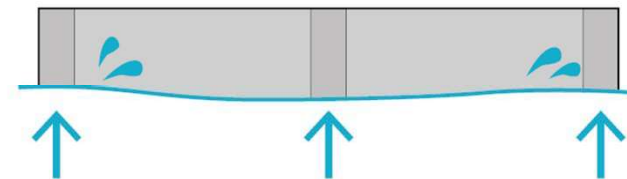
### Event

イベントの開催



### Disaster

災害時：水都大阪の砦



Phase Free Design

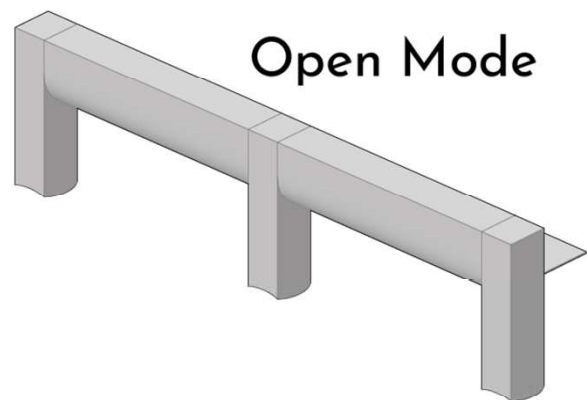


Open Mode

平常時・水辺に人々を誘うシンボリックな外観

## 02 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode

平常時・水都大阪のゲートとなる水門

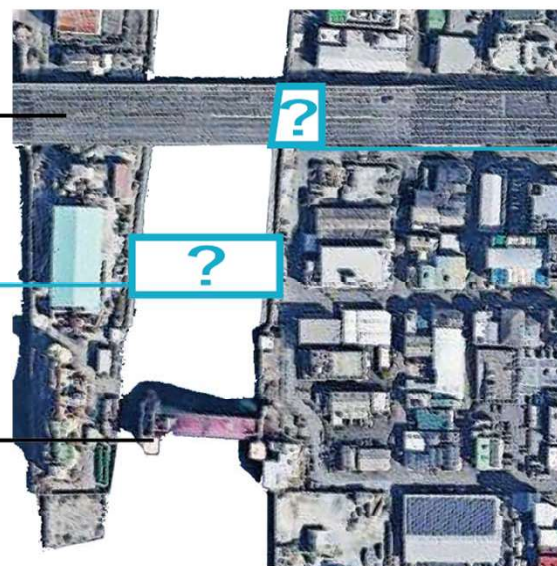


Open Mode

国道 43 号

Project Site 01  
新水門建設予定地

現安治川水門

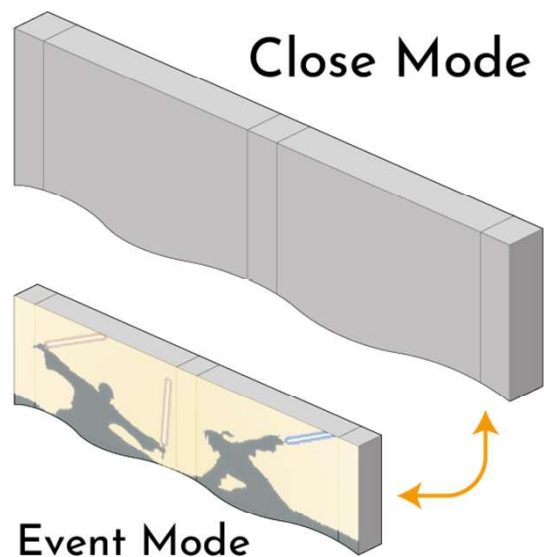


Project Site 02  
水門管理所敷地提案

水門管理所を国道 43 号線の  
高架下空間に提案します  
詳細は [Waterfront](#) の章にて

## Close Mode 災害時 / 試運転時・巨大な面としての表情

### 03 | Daily Mode ⇔ Disaster Mode 災害時 / 試運転時・水都大阪の砦となる水門



#### 「映える水門」は人々を呼び込む

地域への経済的波及効果を期待するにあたっては観光客などの「動員」が不可欠であると考えます。月一度の試運転（閉門）が「SNS 映えスポット」となるようなブランディングを提案します。

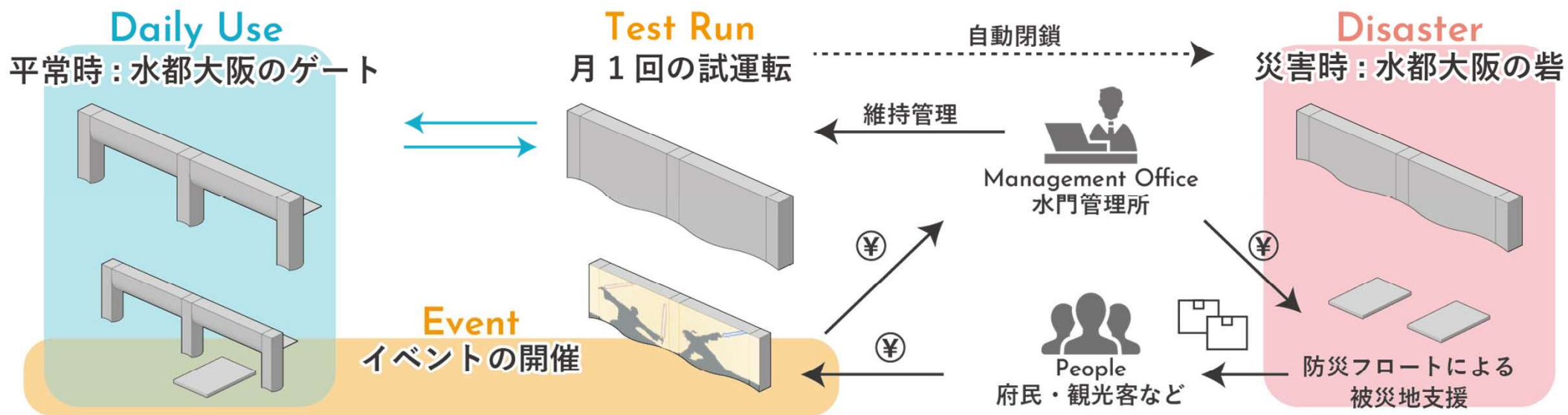
#### 防災フロートと連携して防災の拠点を形成

現在ユニバーサルシティ側には防災フロートが接岸しフェリー乗り場として日常利用されていますが、構造的な問題から東日本大震災時に外洋航行が不可能でした。防災フロートを水門と連携して常時稼働・移動させることで、常に安全に利用可能な状態を保ちつつ、河川上でのより様々なイベント実施や、災害時には沿岸地域への物資輸送に利用することを提案します。





## 04 Business Model 動員装置としての水門モデルの提案



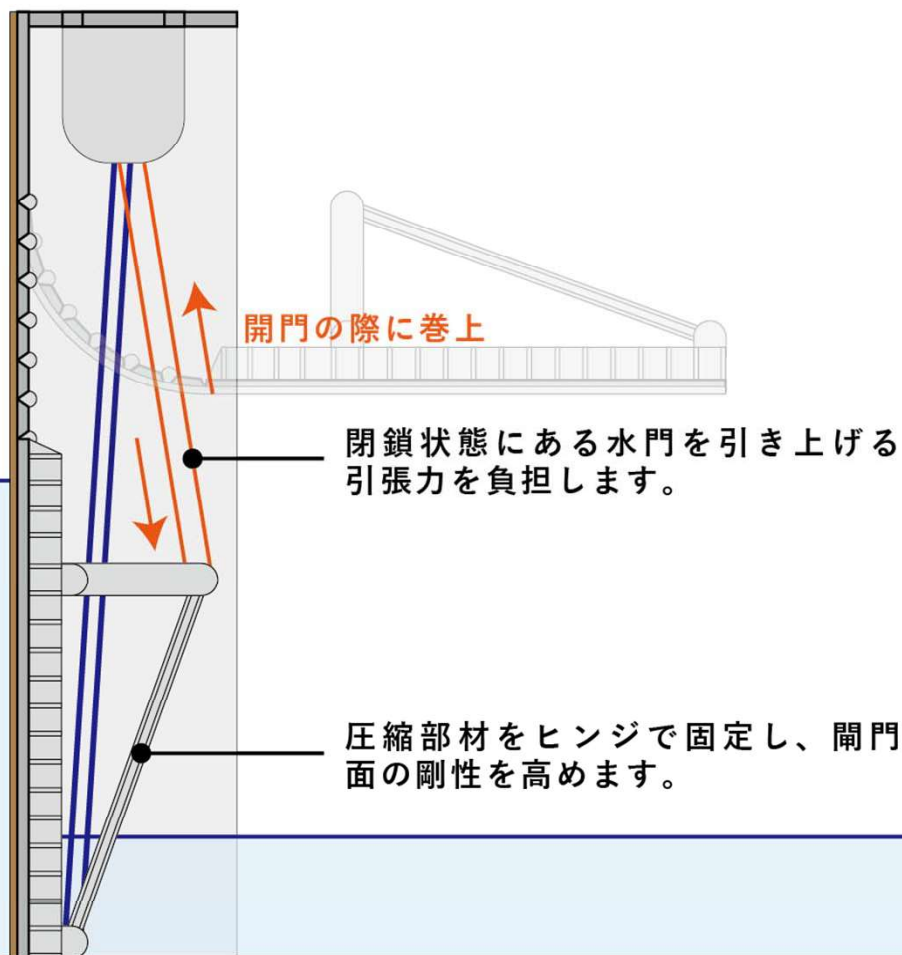
## 05

## Design

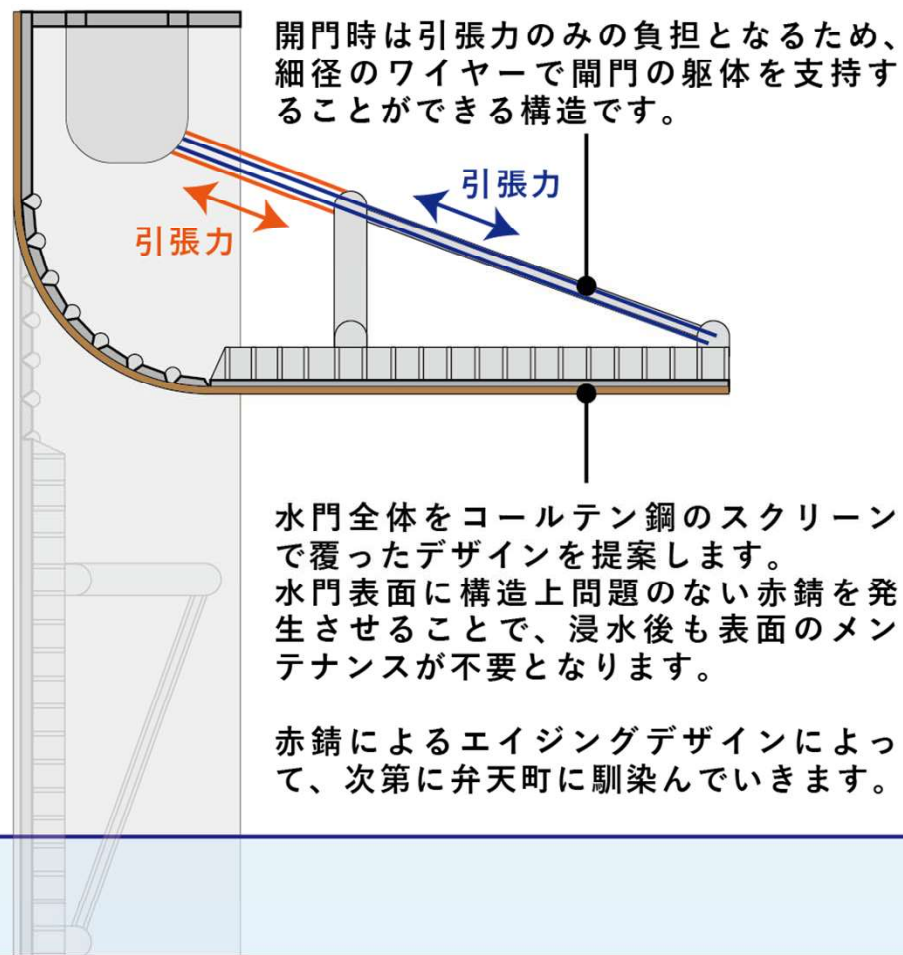
## 暖簾のように開閉する構造体と、メンテナンスフリーのスクリーン

二種類のウインチ・ワイヤーの連携により、暖簾のような開閉を行う水門

Close Mode



Open Mode



水門のシンボル性を高め、同時に人々が憩う場にもなって欲しいという思いから、「場所性のある水門」をコンセプトにデザインしています。また、水面下に沈む部分に可動部を持たないことで、メンテナンス上有利なデザインとしています。



# Shopping Street

弁天商店街の賑わいをアーカイブし、新たな風を吹き込む

## 01 | Problem + Potential 既存商店街の課題と展望

### ▼ Problem

公共交通網の不足・過疎化

↳ 車道の再分配・暫定利用  
歩行者ネットワークの充実

### ▼ Problem

非効率な緑地の利用及び配置

↳ 連続的緑地の整備

### ▲ Potential

豊かな水辺空間



### ▲ Potential

飲食店などの賑わいが点在

### ▲ Potential

地域の拠点：大阪ベイタワー

↳ 従前の賑わいを保存

### ▼ Problem

水辺まで見渡せる場が少ない

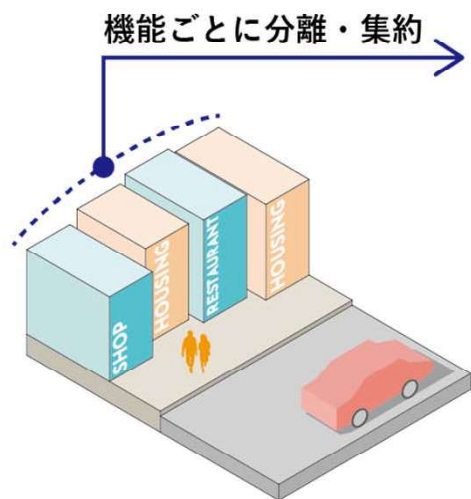
↳ 視認性を重視した街区

# 02 Proposal

## 第一種市街地再開発による都市集約

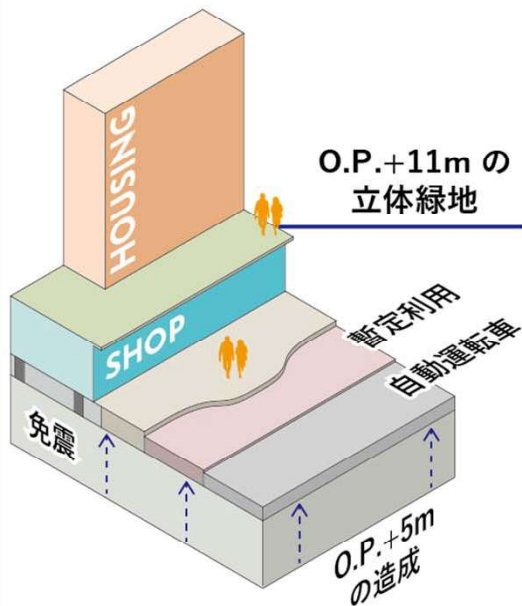
### Before

従来の商店街



### After

機能の集約による見通し・  
防災性能の向上



### 多様な活動を促すグランドデザイン



商店街の機能を集約し立体的な街並みを作ることで、視認性が高くかつウォーカブルな移動空間を形成します。





## 03 | Design Code 「弁天町らしい」賑わいの創出

小さな経済の連鎖による商店街の活性化



商業店舗をオープンスペースと統一されたデザインで連鎖的に配置し、来訪者が数珠繋ぎ的に商業店舗に足を運ぶよう配置計画を行います。

まちとつながる新しいビジネスモデル



新旧のシンボルを観光資源として観光客を誘致し、これにより地域住民の商業的活動を促進し弁天商店街を活性化します。

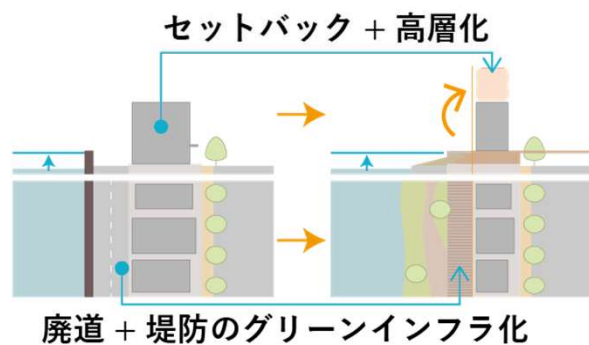


# Waterfront

防災と日常利用の両面にアプローチする護岸デザイン

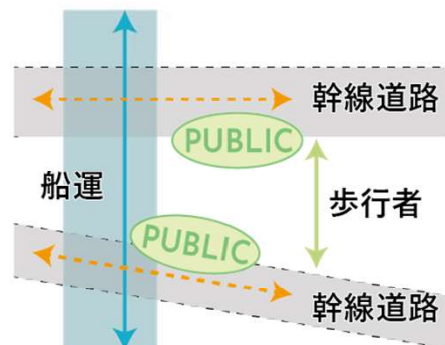
## Point 1

水辺へと開かれた都市デザイン



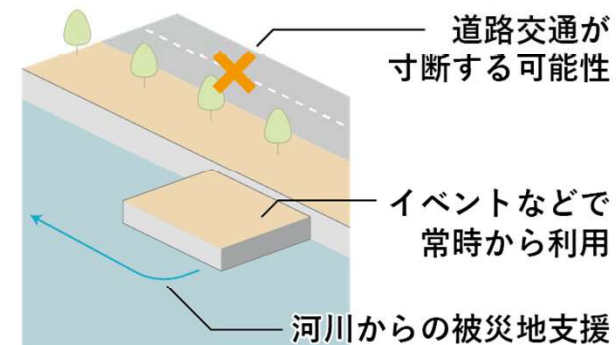
## Point 2

高架下のパブリックスペース化



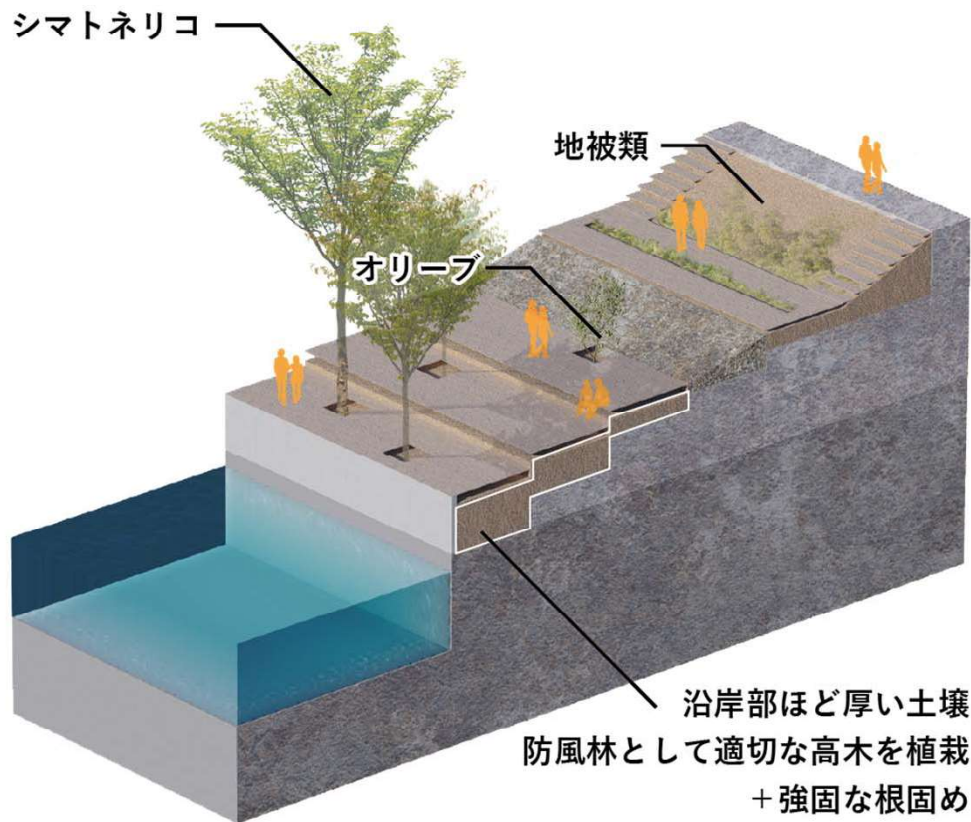
## Point 3

防災フロートの日常利用

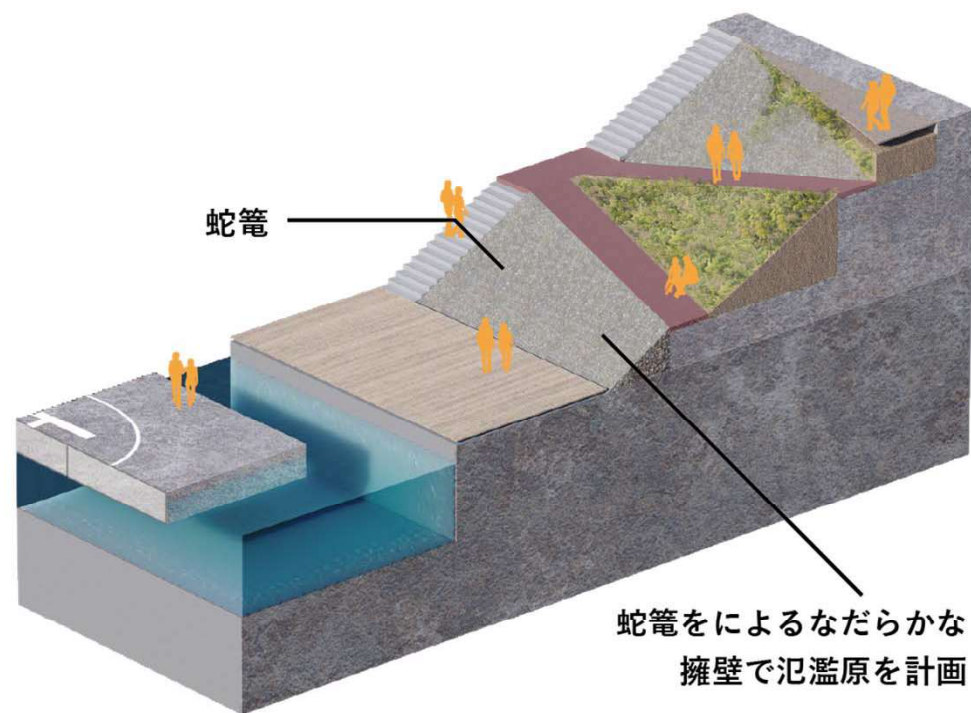


# 01 | Social Design Strategy

## 都市と水辺の結節空間をデザインする



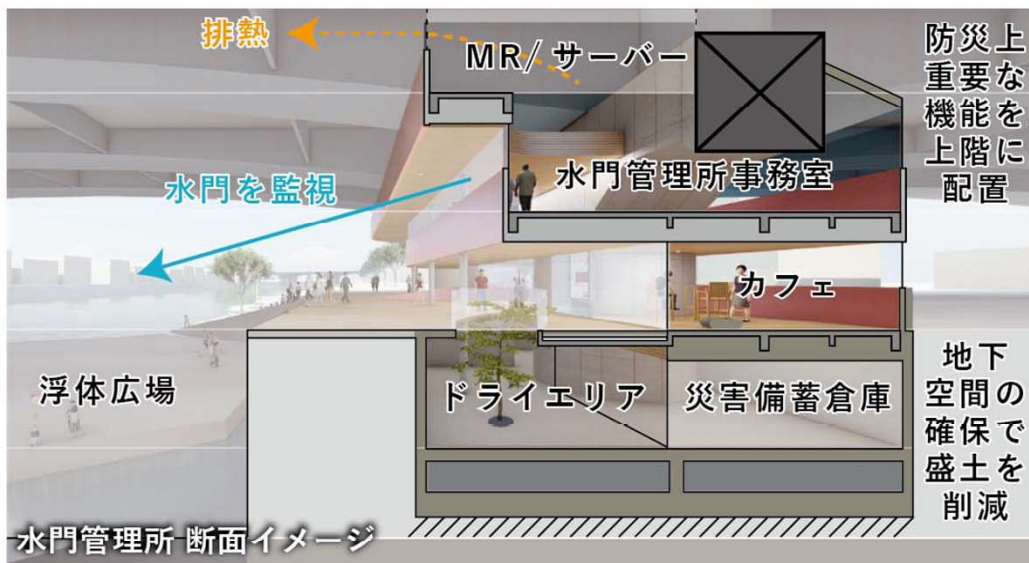
植栽のグラデーションによる防風性能を備えた  
グリーンインフラモデル



街区レベルから沿岸部及び河川上までを一体的に  
利用可能なパブリックスペースモデル

スーパー堤防は強固である一方、河川の様子を日常的に感じることができず、水嵩がある一定のラインを越えた途端に内水氾濫を起こすというリスクがあります。本提案においては河川軸周辺を氾濫原として計画することで、ゲリラ豪雨時などに危険を事前に察知できるよう配慮しています。

## 02 | Waterfront Management Office 高架下の水門管理所

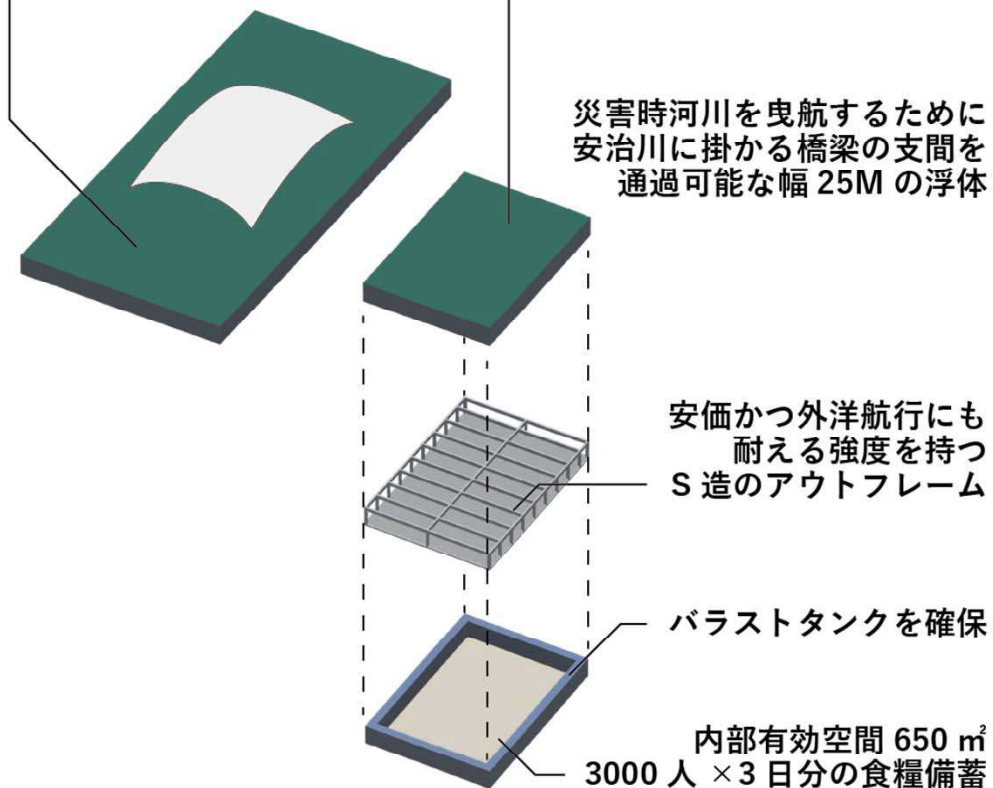


高架の構造体を利用した水門管理所を提案。水辺空間と交通網の結節点としてポテンシャルの高い空間であり、公共建築への応用も可能です。

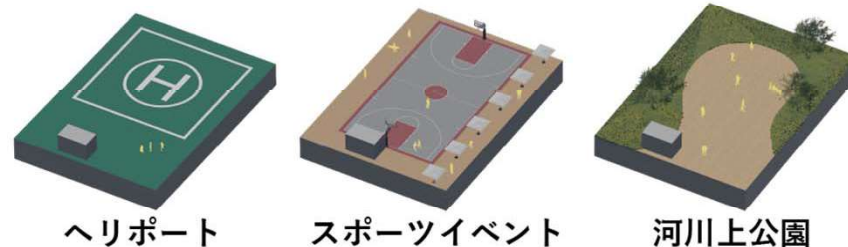
## 03 | Floating Park 河川上のパブリックスペース

大阪湾防災フロート  
RC造 80Mx40Mx4M

提案：小型防災フロート  
S造 35Mx25Mx4M



陸地の機能を河川上に拡張可能



災害時に河川周辺に物資輸送を行う防災フロートの配備を提案します。日常利用で利潤を生み、同時に水辺を活性化します。